

### Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

#### 1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む。)
<b>意見等</b>
<p>研修目標に見合った研修になっていたと思う。受講生も熱心で、質問も多く、講師としてもやりがいがあった。ただ、現地について条件を絞ったため、やや施業計画のバリエーションが少なくなってしまうと思っている。例えば、シカは少ない、ある部分は全面にトドマツ稚樹がある、などとすればバリエーションが多くなったかもしれない。</p>
<p>内容を設定したのが講師であるため、内容との整合が取れているのは当たり前のことである。本来、行いたい研修に合わせて講師を検討したほうが良い。また、路網の研修を行ったがほかの研修でも同様の内容を求められることがあり全体としての整理をしてほしい。</p> <p>受講生の属性が幅広く、興味を持つところが異なるのは仕方ないが、民・国で路網計画の組み立てかたが違いすぎるのでどちらにも合わせるのは非常に難しい。たぶん行政側の参加者には序盤の路網の基礎概念などは退屈であったと思うが、素材生産業者からは非常に好評であった。参加者の基礎レベルをそろえれば、より効果的な研修が可能。</p>
<p>地域の関係機関と連携し、リーダーやコーディネーターとして被害対策の全体構想を作成することについては、その意義や考え方について十分に伝えることができたと思う。構想の実現に向けた取組をどのように進めるかについては、地域ごとに事情が異なるため、必要に応じてフォローするつもりである。</p>
<p>見合っていたと思う。</p>
<p>初めての研修だったため、講師陣も手探りで準備をした。どのような完成度になるか、心配をしていたが、講義・現地実習・グループワークとも、非常に質の高いものとなったと感じている。受講生は、意識がとても高く、研修中にさまざまな質問が寄せられた。</p> <p>グループワークのシミュレーションでは、最初に設定された予算が潤沢だったために、すべてのグループが鋼鉄柵で林分を囲むという計画に収束してしまった。ある程度予算に縛りがあるほうが、グループ間の計画に違いが現れるのではと思う。この点は改善の余地があると感じている。</p>
<p>研修目標を達成するための内容になっていたと思う。</p> <p>受講生も熱心に取り組んでいたように感じ、発表の際も積極的に発言されていて良かったと思う。</p> <p>台風の影響で人数が減ってしまったのが原因ではあるが、1グループ3～4人でグループワークの時も全員参加で意見交換ができていたように思う。</p>
<p>質問がよくあった。一般的なことは分かっているようで、実践的なことについて多く質問が来た。</p>

今後施業すべき森林と天然に任せる森林の峻別がますます必要となる情勢を考慮すると、テーマの方向性は合致していると考え。現状の林分を前にして(想定して)、これからの施業の選択肢を相互に比較しながら目標を決めていくのは林業技術者に必要な技術と思うが、種々の制約から多様な森林を想定できる素材(現実林分)や資料が少ない気がしている。せめて、地位区分というなら多少のバリエーションを見られるようにした方がイメージが付きやすいと思った。また、立地区分から今後施業から撤退する森林、ローコストの森林造成も選択肢に必要と考えるが、今回はそこまで行き着けなかった印象。研修の構成、内容的には良いのではないかと思った。

研修としては、非常に良かったように思う。私どもも勉強になった。受講生各々のレベルが違っていたように思う。搬出計画等も非常に大事だが、前提として搬出区域内の立木材積、間伐率、搬出予想材積等の計画数量の算出及び予想売上収入、路網系架線系搬出方法別による搬出経費予想などを行い、材積的、面積的な損益分岐点の学習をすることも必要かと思う。また、採材研修についても、曲、キズなど切り捨てるところがあるので、メジャー、コンベックス等ではなく3m、4mの竿を使った木取りを推奨。また、実際に造材して曲等を検証するのも必要と思う。

受講生自体は県職員など、架線など計画をする立場なので、コストの計算などをもっと盛り込んだ方が良かったと感じた。  
H型架線集材は架線集材の中でもノーマルな方ではないので、もっとシンプルな索張りの場所の方が良かったかもしれないと感じた。簡易な架線の索張見学がとてもわかりやすくて良かった。  
現地実習について、もっと森林管理局と説明する場所や内容を打ち合わせする必要があった。

個々の意識が高く、班内で意見を出し合い、その中から最良と思われる採材方法を導き出されていたので良い研修になったのではないかと思う。  
選出されていた材が“大曲”“キズ”があったため苦勞されたと思うが、その分多くの意見が出され検討する要素が多くあり、その後の私の講習に熱心に聞かれていた事に繋がったのではないかと感じた。  
採材方法については、(材質が悪かったため)今までの概念が変わる要素が多々あったのではないかと思うので、今後それぞれが現場に帰られてからの指導に役立てていただければと思う。

## 2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか

### 意見等

適切だったと思う。

講義・実習とも予定通り行え、時間は問題なかったと思うが、対象とした踏査範囲が広すぎたので、同じ場所で行うことがあれば、対象範囲を絞ったほうが良い。  
事前に確実に見せるポイントを絞っておけば、より良いかもしれないが、受講生の気づきの機会を失わせることにもなりかねないので、検討が必要。

講義の時間割、コマ数については適切であったと思う。実習については、シカ密度がもう少し高く、被害が多く発生しているところも経験できるとなお良いだろう。

研修実施地からの距離という点で仕方ないのかも知れないが、現地のシカ密度がまだ低い状態だったので受講生に対策の必要性を感じてもらえたかは疑問。

事前打ち合わせ時は、現地実習予定地にてシカによる被害がそれほど見られず、心配だったが、秋に研修を実施したことで、ある程度シカによる被害を目視できる。その他、講義時間や現地実習の設定は適切だったと思う。

シカ対策を考慮した初めての研修プログラムとのことだったが、うまく構成された内容だったと思う。シカ対策を念頭においた森林づくりを進めていただくためにも、今後もこのような研修を実施していただければと思う。

まだ質問が出ていたので、時間的には少し短かったように思う。

全体としては、最終のプレゼンに向けてどのように十分な時間を確保してしっかりディスカッションしてもらえるかに注力した結果として、その分の時間工程は良かったと思う。ただ、一方で、時間的な制約があるとは言え、現地実習の時間配分はもう少し多くても良いのではないかと思った。林分全体とは言わないまでも、林分の広がりや立地的なバリエーションをイメージできる位の踏査時間は欲しい。また、今回は「天然力を活用した森林づくり」として広葉樹の多い林分も演習に加えたが、現地での説明が不足していたのか受講生の印象にはあまり残っていない感じで、せつかくの現地が少し無駄になった感じを持った。ゾーニングの発想には必要な森林タイプできちんと意義等も説明しておけば良かったと反省した。

時間については、できれば2時間(2コマ)ぐらいいただければ、もう少し詳しく突っ込んだお話が出来るのではないかと思う。

講義時間としては、どの程度踏み込んで学習するか、カリキュラムによるかと思う。現地演習等の設定としては、講師としては、大変ありがたいことではあるが、距離的に遠く、移動時間がもったいないように思う。研修会場拠点に近い現場があれば良いのですが。

今回の研修はスケジュール的に特に遅滞もなく適切な設定だったと思う。

場所、材質共に良かったと思う。  
できれば、時間がもう少しあれば採材に関してもっと深いところまで演習できたのではないかと思う。  
今回は、採材という基礎知識が無く『(ほぼ)自由に採材した』という印象を受けた(おそらく事前に講習を受けていると思うが)。ですので、できれば採材の基礎の部分から知識として入っていればもっと面白い研修になったのではないかと感じた。ただし、そこまで深く演習しようとするれば実地+座学で2~3時間かかってしまうので難しいとは思いますが。

<p>3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい</p>
<p style="text-align: center;">意見等</p>
<p>グループワークへの参加の様子を見ると人数が適正だったようで、1グループあたりの人数は増やしてもあと一人。参加人数が多くなった際はグループを増やすしかないだろう。今回各グループでPCによるシミュレーションをおこなったが、今後もこのような実習は成果が期待できることから改良しつつ継続するべきだろう。      現地の状況から開催日はもう少し早い(9月頃)ほうが良かったかもしれない。</p>
<p>事前の打ち合わせについては、できるだけ1回で終わるようにしてほしい。</p>
<p>現地実習の際、ちょうど他のエリアでシカの捕獲があった。できれば、受講生に捕獲个体をお見せできる機会があれば良かったと思っている。例えば、歯の摩滅や生え変わりによる年齢査定、足の形状(足跡)、毛の様子、角の様子などについても説明できたと思う。</p>
<p>最近の受講生は皆さん熱心で知識も豊富で感心することが多いが、山づくりのポリシーを熱く語る感じの情熱、将来の森林に対する夢を想起する、と言った感情的なものが少なくなっている気がした。</p>
<p>研修は、今後動画やパワーポイント、画像などを使うケースが多いと思う。動画等をデータで送ると重くなってしまうため、当日USBにて持参するので、今後は外部USBが使用できるPCをご用意いただければと思う。</p>
<p>模型による架線集材については、構造、動きが学習でき初心者には理解しやすく非常に良かったと思う。</p>
<p>索張をしている現場よりも、してない現場の方がもっと自由に考えやすいのではないかと感じた。計画から、それについての期間やコスト計算を盛り込んだ方が受講生には向いていると感じた。</p>
<p>採材研修を行った現場から少し奥へ入った場所で本当の現場が動いたので、時間があれば研修を受けた上で現場を見学できればもっと面白かったのではないかと感じた。      それぞれが普段から現場作業を見られているとは思いますが、自らが実際に採材を体験して、講習を受けた上で本当の現場作業を見ればまた違った視点で感じられる事があったのではないかと思います。ただ、それをするためには、森林組合長及び現場管理者の了承が必要になるが。</p>

## 2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 83 人中 83 人(回答率 100%)であった。

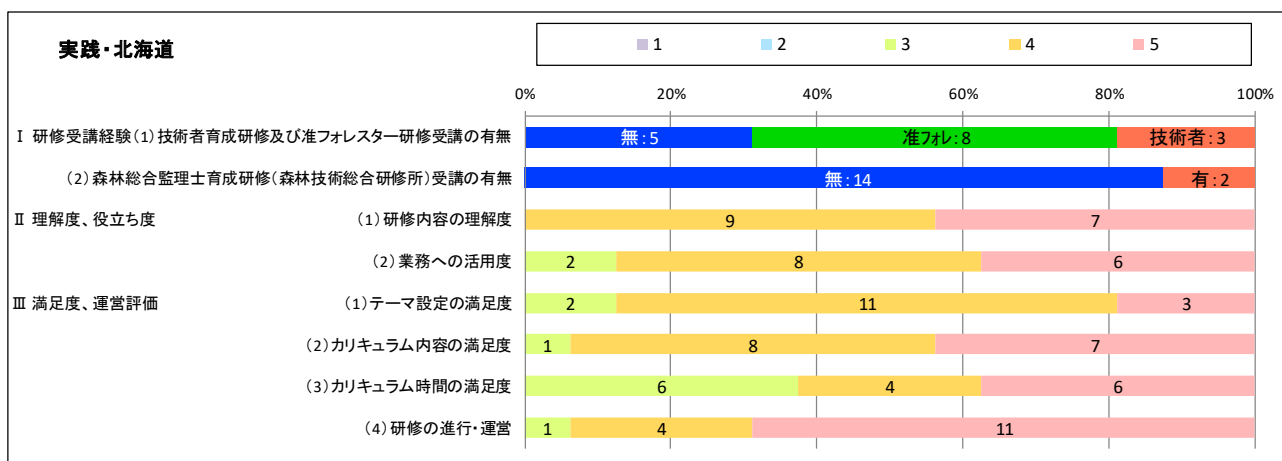
アンケートは、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は 1 (技術者育成研修)、2 (准フォレスター研修)、3 (受講経験なし)、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は 1 (受講経験あり)、2 (受講経験なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「受講生の技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(6)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

昨年度は西日本豪雨の影響で近畿中国ブロックの実施が中止となったが、今年度は全ブロックとも 2 泊 3 日で実施した。また、関東ブロックでは、台風の災害対応等による影響により、受講者数の減が生じた。

### (1)北海道ブロック

テーマ: 成熟した高齢級人工林における森林づくり～天然力の活用等の手法を考える～



#### ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が 69%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が 13%と、約 8 割が森林総合監理士関連

研修の受講経験者だった。

## ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で100%を占め、昨年度(H30:86%)を上回り、全ブロックのなかで東北ブロックと並んで最も高かった。「天然力活用について知見を得ることができ、技術力向上につながった」、「光阻害について考える契機となった」、「現地検討を行うことで理解できた」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

## ③業務への活用度

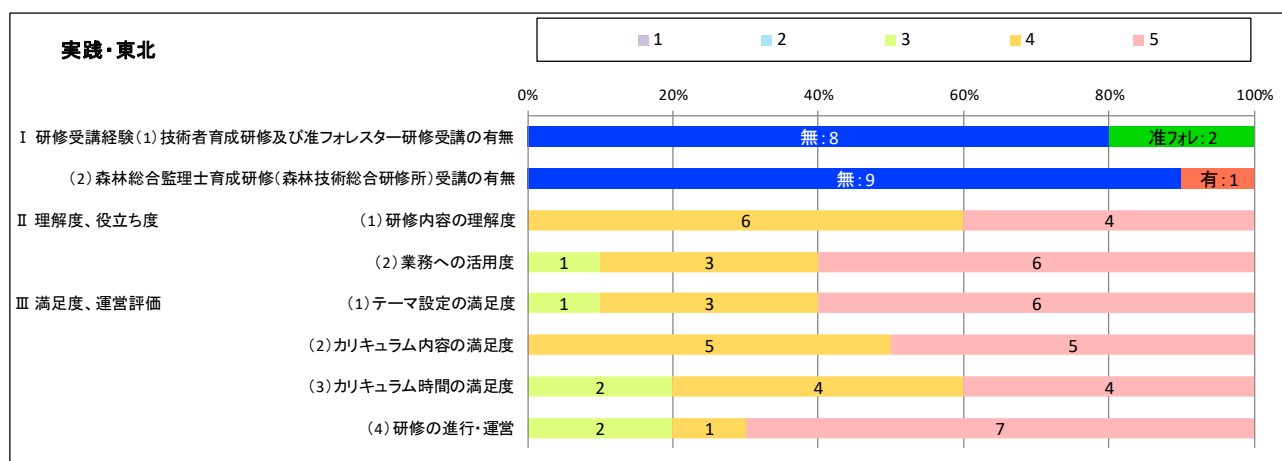
「業務への活用度」は5と4の回答が88%と、昨年度(H30:45%)より割合が増加した。「森林の構想を練る上で能力の向上につながった」、「合意形成を積極的にできそう」、「同じようなトマツ天然更新の現場があるので検討してみたい」といった、業務への活用に前向きなコメントが多く寄せられた。

## ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が88%と昨年度(H30:68%)より割合が増加した。「タイムリーで良かった」、「現実的に直面する内容であったので良い」、「重要なテーマで具体的に検討できた」等のコメントが多く寄せられ、受講生の要望に応えるテーマだったと考えられる。

## (2)東北ブロック

### テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



## ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が20%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が10%だった。

## ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で100%を占め、非常に高い理解度を得た。「CS立体図を使用した路網計画と現地を比べることができたので感覚的に図面と現地との差が理解できた」、「CS立体図の活用方法を知り、実務で取り入れたいと思った」等の意見が寄せられ、実践的な研修内容で理解が深まったことがうかがえる。

## ③業務への活用度

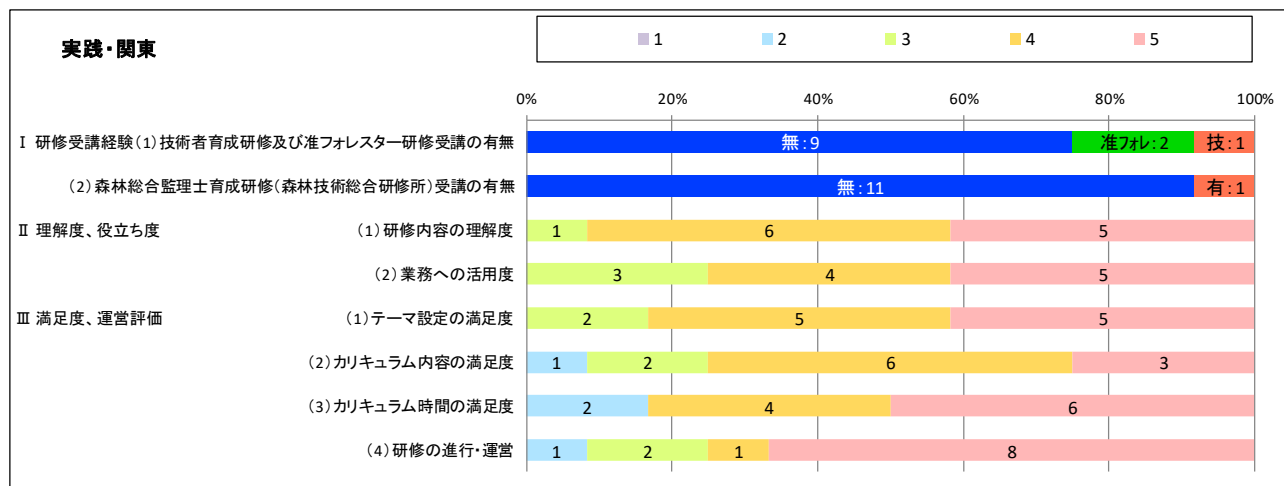
「業務への活用度」は5と4の回答で90%と高い評価を得た。昨年度(H30:58%)から大幅に上昇しており、「森林組合等とCS立体図の活用を検討していきたい」、「現場作業や計画をチェック・指導するうえで活用できる」等、研修で扱ったCS立体図の活用に積極的な意見が多数寄せられた。

#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」も5と4の回答で90%と高い満足度となった。「森林作業道の作設にCS立体図を活用するテーマであり、大変良かった」、「作業道の施策は大変重要であり、勉強になった」等の意見が寄せられた。受講生の関心が高く、また自身の業務に生かせるテーマ設定と研修内容だったことが高い評価を得たと考えられる。

#### (3)関東ブロック

テーマ:主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について



#### ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が8%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が92%を占め、昨年度(H30:73%)より高くなった。「フィールドサインの見方、防除対策のコストと効果の関連について理解が深まった」、「現地観察のポイントを学べた」といったコメントが多く寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は、昨年度は5の回答がなかったが、今年度は5と4の回答が75%を占め、評価が高くなった。「合意形成と長期に渡るメンテナンスの体制づくりに取り組んでいきたい」、「事前対応ができる段階なので、関係者への働きかけにつとめたい」といった前向きな意見が寄せられた。

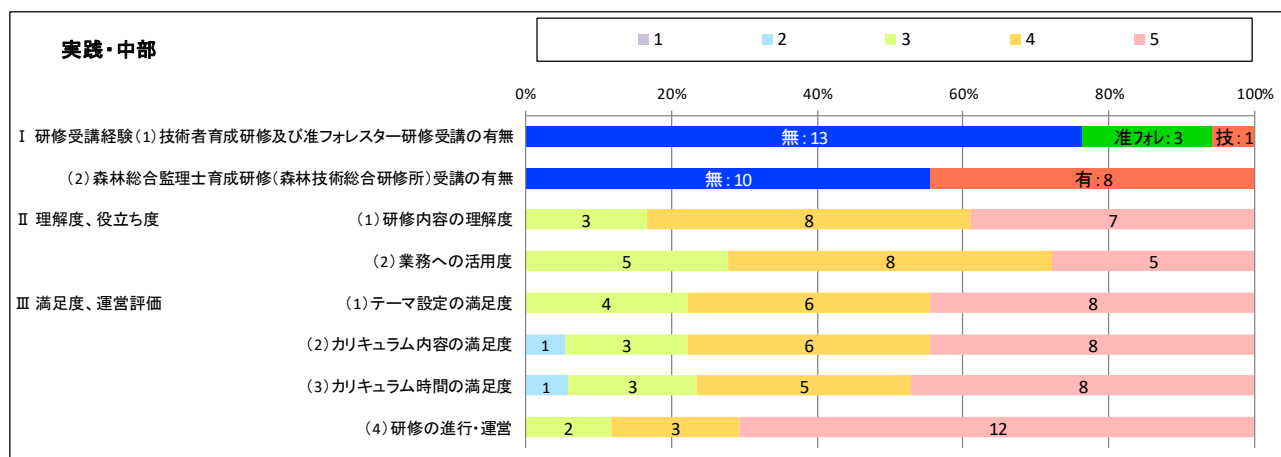
#### ④テーマ設定の満足度

研修テーマが昨年度から変更したが、「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H30:80%)と同程度であった。「今後多くの地域で避けられないので必須」、「獣害は広がってきているので必要なテーマだと思う」などのコメントが寄せられ、受講生にとってタイムリーなテーマであったことがうかがえる。



#### (4)中部ブロック

##### テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通



#### ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が24%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が44%で、約6割が森林総合監理士関連研修の受講経験者だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が83%を占め、昨年度(H30:85%)と同程度だった。「架線システムに特化した研修で良かった」、「各班に講師がついて細部も相談できた」といったコメントもあり、サポート体制も理解度向上への一助となったことがうかがえる。

#### ③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が72%を占め、こちらも昨年度(H30:70%)とほぼ同様であった。「主伐・再造林予定地での検討視点を学べた」、「検討段階での各手法は様々に応用可能」、「プランナーと話をする上で有用」といった、前向きな意見が多数寄せられた。

#### ④テーマ設定の満足度

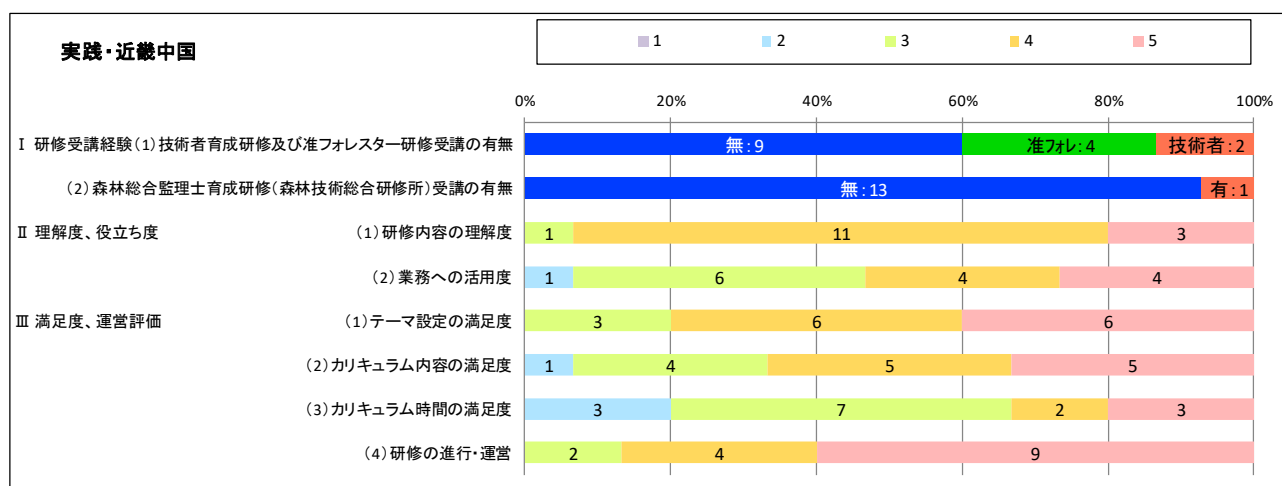
「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が77%と昨年度(H30:84%)より若干下がったが、「民有林は伐造一貫施業の意識が低いので参考になった」、「実践的研修で良かった」、「架線の設計を行ってとても有意義」などのコメントが寄せられた。

なお、受講生18名のうち4名は他ブロックからの参加であり、テーマ(伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通)に惹かれた受講生も多かったものと思われる。



## (5)近畿中国ブロック

### テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



#### ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が40%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が7%だった。

#### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が93%で、前回(H29:76%)より上昇し、「ねらいがシンプルで分かりやすかった」、「高木性広葉樹の活用可能性について理解を深めるきっかけとすることができた」などのコメントが寄せられた。前回(H29)はグループ演習で二つ設定した検討テーマを、「一斉人工造林地における今後の森林施業」の一つに絞ったことも、分かりやすさにつながったと考えられる。

#### ③業務への活用度

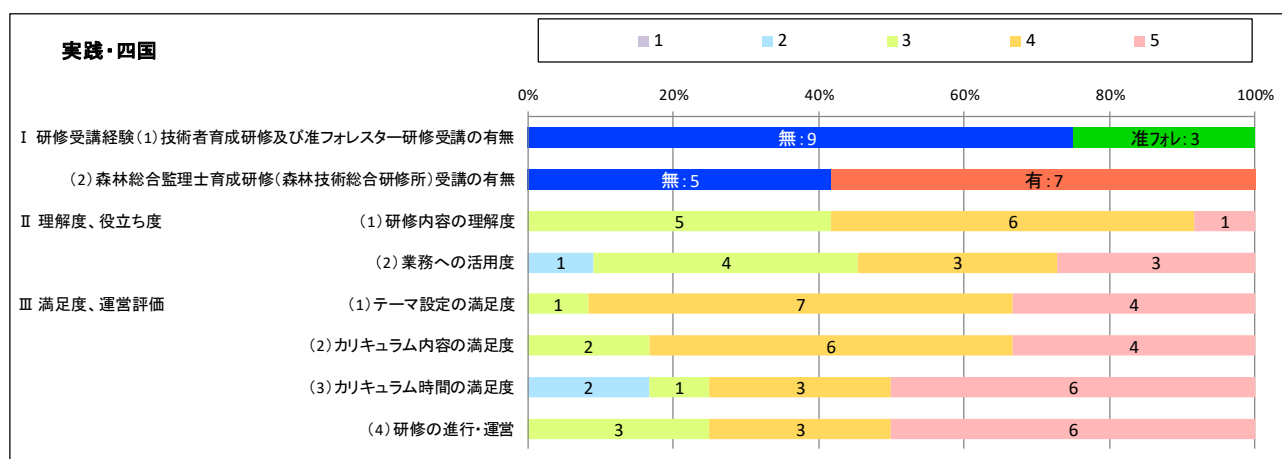
「業務への活用度」は5と4の回答が53%で、前回(H29:71%)より下がったものの、「市町村への多様な森林づくりへの指導で活用」など前向きな意見も多く寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。一方、活用度が2・3の回答者には「実際の森づくりは様々な因子を検討する必要があり内容的に現場で生かせるか疑問」などの指摘もあった。

#### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が80%で、前回(H29:71%)よりやや上昇し、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」、「地位で判断するのは実践的」、「今後、ゾーニングをすることが多くなると思うので良かった」など、今まさに必要とされているテーマと評価された意見が多く寄せられた。

## (6)四国ブロック

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



### ①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」の受講経験者が58%と、約8割が森林総合監理士関連研修の受講経験者だった。

### ②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が58%と昨年度(H30:58%)と同様の割合で、他ブロックと比較し若干評価が低かったが、4以上の回答からは、「架線の理屈が分かっていないので良かった」、「H型集材関係を詳しく知ることができた」といったコメントが寄せられ、詳細な内容・知識を現地実習等で得られたことにより、研修前より更に理解が深まったことがうかがえた。

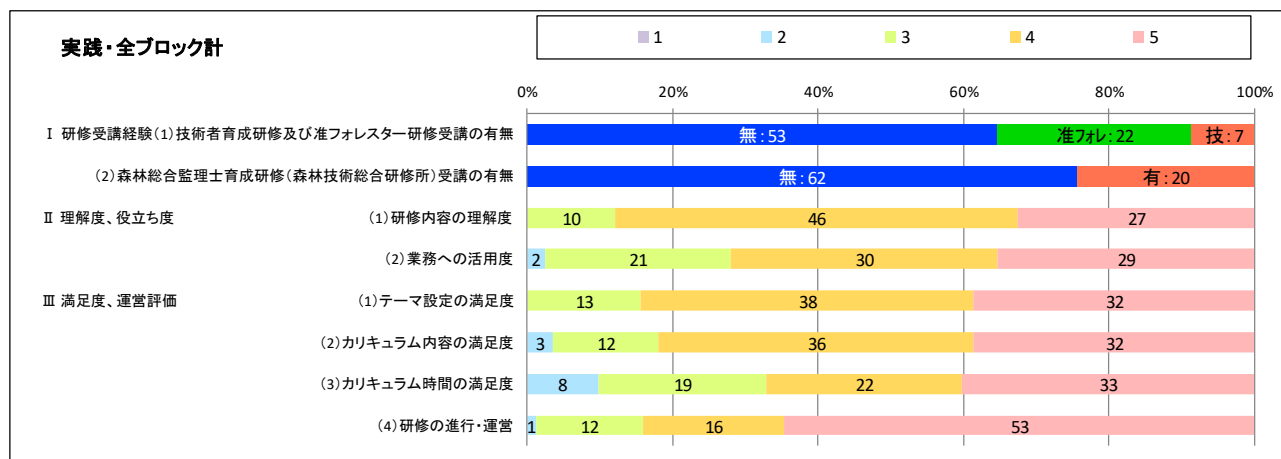
### ③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が55%で、昨年度(H30:83%)より割合が低くなったが、3以下からのコメントでは「架線搬出にかかるコスト計算など、まだまだ多くの知識が必要と感じた」、「県内で架線集材される業者が少ないため、活用は難しいが知識として得られた」といった自身の知識不足や現状自県内で架線を取り扱っている業者が少ないことからであり、4以上からのコメントでは「コアな内容ではあったが架線集材を必要とする現場があるため学ぶべき内容だった」、「森林作業道と架線の併用での作業システムも選択肢として増えるので良いと思う」と寄せられ、今後業務を行う上で選択肢が増えたことがうかがえた。

### ④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が92%と昨年度(H30:100%)と同様に高かった。「架線知識を得られる機会は少ないため貴重」、「架線、集材ともに実践的だったので非常に有意義な研修だった」といったコメントが寄せられ、受講生にとって有意義なテーマであったことが高評価につながったと推察される。

### 3. アンケート結果の概要(全体)



#### (1)技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は各ブロックさまざま、北海道と四国は森林総合監理士関連の研修受講経験者が多く約8割を占めたが、東北と関東は未受講者が約7割を占めた。全体として、准フォレスター22名(R1:27%、H30:29%)、技術者育成研修修了者7名(R1:9%、H30:8%)、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)20名(R1:24%、H30:17%)で、約6割が森林総合監理士関連の研修受講経験者だった。

#### (2)研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」88%(H30:71%)、「業務への活用度」72%(H30:58%)、「テーマ設定の満足度」84%(H30:76%)と昨年度より評価の高い結果となった。他方、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」58~100%(H30:33~86%)、「業務への活用度」53~90%(H30:45~83%)、「テーマ設定の満足度」78~92%(H30:65~100%)(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年度と同様ブロックによってバラつきがあった。

##### ①研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、3以下の回答からは「講義自体は分かりやすかったが、経験を積まないといけないと感じた」といった自身の経験不足や自県での取り組み状況から理解度が低い受講生もいたが、他方、「現地検討を行うことで理解できた」、「実務で取り入れたいと思った」というコメントも寄せられ、現地実習と講義による実践的なカリキュラム構成により理解が深められたことがうかがえる。特に北海道と東北が高い評価であった。

##### ②業務への活用度

「業務への活用度」は各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出たが(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)、「現場作業や計画をチェック・指導するうえで活用できる」、「合意形成を積極的にできそう」など、今後の業務活用に前向きな意見が寄せられた。また、3以下の回答からも「県内で架線集材される業者が少ないため、活用は難しいが知識として得られた」といった意見もあり、新しい知識を得る機会になった一面もあったことがうかがえた。東北は高い評価であった。

##### ③テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は全ブロックおおむね高評価で、「今後多くの地域で避けられないので必須」、「現実的に直面する内容であったので良い」、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」と満足度が高い意見が多く、受講生にとってタイムリー、または今後必要になってくるテーマであったことがうかがえる。東北と四国は高い評価であった。

### **(3)カリキュラム内容・時間の満足度**

#### **①カリキュラム内容の満足度**

「カリキュラム内容の満足度」は、5と4の回答で82%(H30:70%)を占め、昨年度より評価が高くなったが、ブロックごとで見ると67~100%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)でブロックによって若干バラつきがあった。特に北海道と東北の評価が高く、「室内・現地のバランスが良かった」、「自分の考えを整理しながら進められた」、「図面で路線設計して踏査するという手順を細かいところまで一通りできて良かった」といったコメントが寄せられ、詰め込み過ぎず、講義と演習内容のバランスが取れていたことが満足度につながったことが推察される。

#### **②カリキュラム時間の満足度**

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が67%(H30:42%)で、昨年度より評価が高くなったものの、他の項目と比べ若干低い評価となった。ブロックごとで見ると33~83%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)でブロックによってバラつきがあり、「限られた時間に集中して作業することができた」、「短い時間の中で充実度が高い」といった研修の限られた時間の中で前向きに捉えるコメントもあったが、他方、例年課題にあがっているが、「踏査時間が少なかったと思う」、「限られた時間で結論を出すことは重要だがもう少し検討できる時間がほしかった」といったコメントが見られた。全ブロックとも本研修は演習を中心に構成していることから、班内検討から検討結果を導く行程を進めるうえで、消化不良が残らないような内容にしていくことが重要と考えられる。

### **(4)研修の進行・運営**

「研修の進行・運営」は、5と4の回答で84%(H30:80%)と昨年度と同じであったが、5の回答が65%(H30:40%)と昨年度より評価が高くなり、「短い時間だったが、全体的にバランスが良かった」、「集中して研修が行え有意義だった」、「ほぼ時間通りの進行で、ダレることなく受講できて良かった」などのコメントが寄せられた。また、ブロックごとで見ても5と4の回答は75~94%(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、全ブロックおおむね高評価であった。

### **(5)その他感想、来年に向けての提案など**

本研修はブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから、カリキュラム内容について各ブロックさまざまな感想・意見が多く寄せられたが、共通して、今回の研修で得られた知識を業務に生かしたいといった前向きな意見が見られた。また他にも、「人や所属等によって、計画が違いとても勉強になった」、「他の受講生等と話ができ、面識ができて良かった」、「熱い思いが伝わった研修だった。この熱が冷める前に今後について考えていきたいと思う」といった研修全体に対する高評価のコメントも寄せられ、都道府県職員、国有林職員、民間等が集まった本研修が、講師からだけでなく、受講生からも刺激や学びがあったことがうかがえた。

#### 4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・演習において「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。	特記事項なし。
東北	・アンケートにおいて研修全体の満足度は高く、内容的にも充実した研修であったが、より内容を充実させられるように講義内容及び時間設定の適正な配分を調整する。	・演習地が遠方であったことから移動に長時間要したため、移動時間及び現地での実習時間の配分等を再度検討する必要がある。	・会場が昨年度と異なったため、バスや関係者車両の駐車場確保に課題が残った。
関東	特記事項なし。	・現地実習中に作業中の森林管理局関係者と遭遇し、止め刺し道具の使用方法等の説明を聞くことができたことから、初めからカリキュラムに組み込んだほうが良かったのではないかという意見があった。	特記事項なし。
中部	特記事項なし。	・計画図面策定用の図面(伐採区域検討図)が1人1枚ずつ必要となったため急遽印刷を行ったが、演習をイメージして必要と考えられる資料を事前に準備することも必要。	特記事項なし。
近畿 中国	・「ふりかえり」の時間がなく、受講生自身の整理、班内共有が必要ではないかという意見があり、今後検討をする。	・現地検討時間が短いという意見が多くあり、割愛できる箇所はあるか等タイムスケジュールを検討、あるいは、現地確認できない部分はドローン映像で確認させる等工夫が必要。	特記事項なし。
四国	特記事項なし。	・現地実習地において、現地の	・林道が狭いためジャンボ

		搬出系統図を提示・説明したため、受講生が独自に考える検討の幅を狭くしてしまったことから、自由な検討ができるよう工夫をする。	タクシーを利用したが、今後の研修においても、移動手段・時間に配慮していく。
--	--	---	---------------------------------------

## 5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

受講生の研修履歴は、准フォレスター研修修了者 22 名 (27%)、技術者育成研修修了者 7 名 (9%)、森林総合監理士育成研修修了者 20 名 (24%)、森林総合監理士関連の研修未受講者 34 名 (40%) だった。

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、森林管理局署職員、民間職員等を対象に、全ブロック 2 泊 3 日で実施した。

受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった (H30 : 43.5 歳 → R 1 : 43.0 歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

### (1) ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・全体的に評価が高かったが、班内での検討時間やふりかえりの時間が短かったという意見が寄せられた。	・毎年度あがる課題だが、演習において「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が聞かれるため、次年度以降も「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
東北	・総じてアンケートの評価は高く、特に、CS 立体図を使用したことで、今後の業務への活用等において積極的に取り入れたいといった高評価のコメントが多く寄せられた。	・演習地が遠方で移動に長時間要したため、移動時間及び現地での実習時間の配分等の改善を図る。
関東	・各地域で獣害が広がっているためテーマ設定は高評価だったが、「シカの捕獲ができなかったので写真等で止め刺しまでの流れを出しても良いと思った」、「簡略化された条件下での演習はやや物足りなかった」といった現地実習や演習内容に更なる充実を求める声が寄せられた。	・アンケートでも受講生から要望があがった、止め刺し道具の使用方法等の説明をカリキュラムに組み込むことを検討する。
中部	・昨年度のアンケートで寄せられた「内容の濃さに対し、時間が短かった」といったカリキュラム内容と時間に対する要望の意見は減り、今年度の「架線システムに特化した研修で良かった」といったコメントに代表されるように、限られた時間の中でバランスが取れた内容であったことが伺えた。	・急遽、計画図面策定用の図面(伐採区域検討図)を用意したが、こういった資料が演習に必要なか、演習の流れをイメージして事前に用意することが必要である。
近畿中国	・「カリキュラム時間の満足度」の評価	・ふりかえりの時間がないことや、受講生



	が若干低く、「現地把握には少々時間が少なかった」、「限られた時間で結論を出すことは重要だがもう少し検討できる時間がほしかった」といったコメントが寄せられた。	のアンケートからも要望があがった検討時間が短かった点について、タイムスケジュールの見直しが必要。
<b>四国</b>	・架線集材というコアな内容で、地域で架線を取り扱っている業者が少ないことから、「研修内容の理解度」・「業務への活用度」の評価が若干低かったが、テーマ設定の満足度の評価は高かった。	・現地実習地で現地の搬出系統図を提示・説明したため、受講生の検討の幅が狭くなってしまったことから、自由な検討ができるよう、前提条件の示し方等の工夫が必要。

## (2)全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートの評価は、「技術者育成研修及び准フォレストラー研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。その結果、各ブロックで、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は、5と4の割合がブロックによってバラつきはあるものの53～100%を占め、「実務で取り入れたいと思った」、「森林経営管理制度がこれから進む中でこういったテーマでの研修は助かる」など肯定的なコメントが多く、おおむね高い評価となった。都道府県のニーズ・意見を踏まえ、各森林管理局が工夫を凝らして研修テーマを設定し、昨年度からテーマを変更したブロックもあったが、今後も森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的なテーマ・内容で実施することが重要である。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合が67～100%とブロックによってバラつきがあった。また、「カリキュラム時間」に対する満足度は5と4の割合が33～83%と、時間に対する満足度もブロックによってバラつきがあり、かつ、他項目に比べ若干低い評価であった。例年あがる意見だが、ブロックによって「現地踏査・検討時間が短い」などのコメントが見られ、テーマとカリキュラム内容に見合った時間配分は引き続き考えていく課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合が75～94%でおおむね高評価であった。ブロックによって、現地実習や演習の時間不足を指摘する声は寄せられていることから、限られた時間の中でカリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を検討していくとともに、受講生が集中して受講できる進行や環境を整えて実施することも重要である。

## (3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

全体的にスムーズに進行された。各ブロックでカリキュラムが異なるため今年度の課題にそれぞれ違いはあるが、受講生が地域に戻って市町村への指導や助言を行う際のヒントになるよう、各ブロックのテーマに合った講義・演習とし、資料内容や伝え方の工夫をしていくことが重要である。

## 6. 総括

### (1)全体設計・テーマ・カリキュラム

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としていることから、今年度も森林総合監理士を受講対象としたが、昨年度同様、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあった(各ブロックの森林総合監理士の参加率：20～94%(2～15名))。また、研修受講者数については、台風の災害対応等の影響で急な欠席者が多かったブロックがあったものの、各ブロックの受講者数が10～18名と参加者が若干少ないブロックもあった。本研修の立ち位置の周知の時期、受講生の選定、受講者数の確保について検討が必要であると考えます。

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定したことで、全ブロックおおむね高い評価を得ていることがアンケート結果からもうかがえた。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを選定することが重要である。

毎年度課題にあがっていたカリキュラム内容に対しての時間不足についてだが、現地実習や演習内容のなかで、どこが重要で伝えたいことか焦点を絞る等したことにより改善されてきているが、今年度も演習・検討、ふりかえりの時間不足の指摘は若干あるため、カリキュラム内容と時間配分については引き続き検討の必要がある。

### (2)研修運営

統括事務局の重要な役割は、全体進行役や講師、関係者等が安心して研修を実施できるようにすること、そして何よりも受講生が研修に集中できるような環境をつくることである。そのために、受講生、講師、関係者等が必要としていることを事前に想定し、準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロック研修ごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整に即応できる体制とした。また統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等のほか過年度にない対応を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整えた。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できたが、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫は引き続き重要な課題である。各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れていくことも円滑な研修運営につながるのではないかと考えられる。

運営経費等を考慮し、今年度も森林管理局・署の会議室、市の施設を使用した。特に狭いという感じはなく実施することができた。今後も、会場の大きさと参加人数に合った会場を選択し、受講生が集中できる環境を整えることが重要である。また、今年度は雨天等による現地実習や行程変更が生じたブロックはなかったが、雨天の場合のスケジュールを事前に立てる等、今後もさまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

### (3)おわりに

現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、外部講師・森林管理局講師からだけでなく、受講生同士が意見交換し、お互いからも学びのあるカリキュラム構成となっていることから、ねらい通りの研修成果が得られたと言える。今後も、森林総合監理

士等の技術者が、各地域で活動をしていく上で必要な知識・技術力を習得できる研修を実施していくことが必要であり、受講生が本研修で得たことを各地域で実践していくことを期待したい。



## 情報共有ネットワーク化の実施

# 情報共有ネットワーク化の実施

## I. サイトの開設状況

### 1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

#### (1)目的

実践研修の実施概要・カリキュラム(年度当初は計画)、森林総合監理士のPR等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

#### (2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

#### (3)構成・イメージ

##### ○コンテンツ

- ・ 事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要
- ・ 実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等
- ・ 森林総合監理士PR：サイトの概要
- ・ 森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要

▲トップページ

事業概要
平成31年度 市町村支援技術者養成事業
→ 事業の目的及び概要
1 目的 森林経営管理法の施工に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の育成・確保を目的とした人材育成事業です。
2 概要 市町村に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者を育成・確保するため、新たな森林管理システムに対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者（森林総合監理士を含む）の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">実践研修</a></li> <li>● <a href="#">森林総合監理士P.R.サイト</a></li> <li>● <a href="#">森林総合監理士ネットワークサイト</a></li> </ul>

▲ 事業概要 (部分表示)

実践研修
概要
主に森林総合監理士等の継続教育を目的として、地域の森林・林業の再生・成長産業化に向けた課題をテーマに、現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修とし、地域特性等を踏まえた課題等をテーマに設定して行う実践研修を全国6ブロックにおいて実施します。
→ 対象者
森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局職員、民間職員 等
→ 研修内容
森づくりや木材生産のコスト低減に向けた先進的な取組をテーマに、外部の専門家にも参加して頂き、地域のフィールドを活用した現地検討、課題の背景と解決策を共有するための地域の取組事例発表、現地検討後の意見交換等を行うカリキュラムにより実施します。
→ 研修実施場所等
全国6ブロック（北海道、東北、関東、中部、近中、四国の各森林管理局管内）において9月から11月に実施します。

▲ 実践研修 (部分表示)

## 2. 実践研修受講生向けサイト

### (1) 目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

### (2) 対象者

令和元年度実践研修受講生、研修運営に関わる者（林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者）

※対象者のみのログイン制

### (3) 構成・イメージ

#### ○ コンテンツ

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料 P D F
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書 P D F
- ・ 森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(令和元年度版) P D F

#### 【参考：平成 30 年度実践研修】

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料 P D F
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書 P D F



# 市町村支援技術者養成事業 技術力維持・向上対策研修（実践研修） 受講生サイト

## 新着情報

- 2020.1.24 [近畿中国ブロック](#) 研修資料をアップしました。
- 2019.12.13 [北海道ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[四国ブロック](#) 研修資料をアップしました。
- 2019.12.11 [関東ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2019.11.12 [北海道ブロック](#)・[中部ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2019.9.26 [東北ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2019.7.12 [北海道ブロック](#)・[東北ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施予告をアップしました。
- 2019.7.12 [研修基本テキスト](#)を更新しました。
- 2019.7.12 研修実施後に実施報告書を掲載します。  
参考までに昨年度の研修実施報告書・研修資料を掲載しています。
- 2019.7.12 令和元年度 技術力維持・向上対策研修（実践研修） 受講生サイトをオープンしました。

↑ PAGE TOP

## 令和元年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)
- [研修基本テキスト](#)

## 平成30年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

## ▲ トップページ

四国ブロック		
研修資料		
日程	講義等の内容	資料名
1日目	【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	「人工林の大径木をどう使うか？」集材材・CLTの可能性 <a href="#">▶</a> ●講師：砂田 和之（株式会社サイプレス・スナダヤ）
	【講義】 架線集材の必要性と架線系作業システムの現状について 【実習】 架線集材の基本（簡易な架線見学）	架線系集材方法を活用した効率の高い作業システムを確立するために <a href="#">▶</a> 模型架線作業の操作方法 <a href="#">▶</a>
2日目	【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図（集材線）を記入	図面 <a href="#">▶</a>
	【実習】 架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図（集材線）を現地踏査確認	●講師：太郎田 佑一（須崎地区森林組合）
	【現地実習】 採材研修	採材野帳 <a href="#">▶</a> ●講師：大川 容平（高知県森林組合連合会 高幡共販所） 受講生発表資料 採材 1 <a href="#">▶</a> / 2 <a href="#">▶</a> / 3 <a href="#">▶</a>
3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 図面 1 <a href="#">▶</a> / 2 <a href="#">▶</a> / 3 <a href="#">▶</a>

## 模型架線作業の操作方法



## ▲ 研修資料>四国ブロック

3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 図面 1 / 2 / 3
-----	------------------	-------------------------

**実施結果**

→開催日時：令和元年11月13日（水）～15日（金）

研修会場：四国森林管理局（高知県高知市）  
現地実習地：四万十署管内  
テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業設備を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

(1) 報告書PDF

### ▲実施報告書>四国ブロック

**実践研修 実施報告書(四国ブロック)**

1 日程・研修場所 令和元年11月13日（水）～11月15日（金）  
研修会場 四国森林管理局会議室（高知県高知市）  
現地実習 杵ノ川山園有林3208林班ほか（高知県須崎市）

2 研修受講者数：12名【男性：9名 女性：3名】  
(県職員8名、森林管理局職員4名)

山口県	1名	徳島県	1名	香川県	1名	愛媛県	1名	高知県	1名
福岡県	1名	熊本県	2名	森林管理局	4名				

途中欠席者数 0 名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は閉講式後に班内で自己紹介をした後、砂田講師から動画によるヒノキ・スギ材のCLT製造状況、木材が生原料のCLT製造への経緯とヨーロッパにおけるCLT生産状況等の木材流通の講義により始まり、続いて高講師による架線集材システムの講義と、局庁舎駐車場内に設置されたエンドレスタイラー方式の簡易集材装置を使って基本的な架線及び集材装置の実習を行った(受講生も操作体験)。
- ・2日目は班ごとに現地研修に行く前に、空中写真等を使い、机上等による搬出系統図を作成後、現地実習地へ移動。各班で作成した図面と現地の状況を確認するとともに、現地で作業に当たっている須崎森林組合による搬出系統等の説明に基づき、再度、搬出系統図の検討を行った。午後から、現地の土場において高知県森林組合連合会高橋共販所の職員による、効率的・適正な採材について、講義・実習に取り組んだ。
- ・3日目は各班は前日の現地実習地の確認等を踏まえた集材架線システムの取りまとめを発表し、発表に対する質疑応答・講評で本研修を終了した。
- ・全体としては①川上から川下に至る木材製品の流れにおけるCLTの位置づけ②急傾斜地における架線系による集材システムといった地域特性を持った搬出技術の知見拡充が図れた研修であった。

○今回の研修の工夫点

- ・架線集材システムを仕組み等を短期研修で理解し易くするため、局庁舎駐車場内に設置された簡易集材装置(電動)による操作実習を研修生が体験できたことにより理解力の向上を図ることができた。また、森林GISと架線設計計算(エクセル)による安全率、垂下比等の算出により、架線設計が効率的に行うことができた。

4 記録写真

砂田社長の講義：1日目  
集材装置による操作実習：1日目  
集材システムの現地説明：2日目  
机上で検討した搬出系統の現地検証：2日目  
現地で採材研修：2日目  
集材架線システムの検討結果の発表：3日目

## 3. 森林総合監理士PRサイト

### (1)目的

森林総合監理士活動への需要者(市町村、事業者、森林所有者等)に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援(P R)することを資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容とした。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載した。

### (2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

### (3)構成・イメージ

#### ○コンテンツ

- ・山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- ・森林総合監理士(フォレスター)とは? : 森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- ・あなたの地域の森林総合監理士：各県ごとの森林総合監理士登録者一覧PDF(林野庁ホームページをリンク掲載)
- ・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)：森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士



(フォレスター)の活動モデルを掲載

- ・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
- ・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
- ・関連情報リンク

## 森林総合監理士PRサイト

市町村支援技術者養成事業

森林総合監理士(フォレスター)は、地域全体の視点に立ち、森林経営と林業技術両面に関する専門知識をもち、求められる役割を担ってまいります。  
森林総合監理士が、どのような形で地域の皆様のお役に立てるかということ、イメージし、実際に活用していただけるような情報を提供いたします。

**山林所有者のみなさま**

**素材生産業のみなさま**  
(森林組合・林業事業体)

**木材流通・加工業のみなさま**

**市町村担当者のみなさま**

**消費者のみなさま**

**教育機関のみなさま**

[森林総合監理士とは？](#)

[あなたの地域の森林総合監理士](#)

**森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)**

[用語辞典](#)

[森林・林業情報源](#)

[関連情報リンク](#)

森林総合監理士(フォレスター)  
**林野庁**  
Forestry Agency

**全林協** 一般社団法人  
全国林業改良普及協会

### ▲トップページ

山林所有者のみなさま素材生産業のみなさま木材流通・加工業のみなさま市町村担当者のみなさま消費者のみなさま

## 山林所有者のみなさま

「地域のまとまり、将来へのそなえ」を確実に

林業で期待できる経済効果は、一人一人で行うより、まとまることでより高めることができます。

例えば、

- 森林所有者の山林をまとめて間伐できるなら、作業効率が上がります。
- 伐採・生産した木材をまとめることで、有利な販売が可能になります。
- 森林所有者の意見をまとめることで、作業道を作り、効率の良い林業作業ができ、結果として林業の生産コストを下げるすることができます。

こうしたまとまりを地域に作り、経済効果を高めるためには、全体を取りまとめる計画が必要ですし、地域の森から、将来のように木材(量・質)を産出し、市場へ売却していくのが、といった経営方針や実行方法を定める計画も必要です。

みなさんがお住まいの市町村では、そのような林業の計画(※1)を作成していますし、山林所有者のみなさん自身の計画づくり(※2)のお手伝いも行っています。

森林総合監理士(フォレスター)は、森林経営と林業技術の両面に関する専門的知識を持

### ▲山林所有者へ向けた森林総合監理士の活用方法(部分表示)

## 森林総合監理士(フォレスター)の活動モデル

### 活動モデル1 計画作成支援

**モデル事例① 市町村森林整備計画の策定支援(市町村支援)**

- 支援チームを設置

出先事務所の森林総合監理士がリーダーシップを取り、市町村、道、林業事業体、森林施業プランナー、指導林家、森林管理署等で構成する作業チームを市町村に設置し、計画策定のための情報共有を行った事例があります。

森林総合監理士は、地域のさまざまな機関、団体等の協力、情報提供を受け、市町村は計画の策定、地域住民との合意形成等を進めるなど、支援チームのコーディネートを行いつつ、技術的な指導・支援の役割を担いました。

**モデル事例② 市町村森林整備計画策定、森林経営計画認定作業に向けた研修**

市町村によっては林業に関する知識・経験を有する職員が不足しており、計画策定の中身やゾーニングなどをどう進めていいのかが、とまどうなどの事例も出ています。また、森林経営計画の認定についても同様です。

そこで市町村担当者を対象に、森林総合監理士が計画策定や認定業務に必要な知識、技術に関する研修を実施することで、市町村の計画策定を支援した事例があります。

### 活動モデル2 経営支援

**モデル事例① 新規分野の事業開拓に向けて**

自治体等から受注する公共事業中心の経営から地域の森林管理(経営計画作成を軸とした管理委託、生産事業等)主体へ転換を図りたい森林組合等へ、アドバイス・支援を森林総合監理士が行った例があります。森林組合経営幹部、職員が参加した研究会開催、地域の森林資源状況の把握、生産体制整備の方針策定など、具体的な経営策づくりへの支援などを森林総合監理士の指導で行いました。

### ▲森林総合監理士の活動モデル(部分表示)

## 4. 森林総合監理士ネットワークサイト

### (1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを構築した。

### (2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

### (3)構成・イメージ

#### ○コンテンツ

- ・全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- ・森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- ・研修関係の蓄積情報：平成 23～25 年度准フォレスター研修・平成 26～28 年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- ・全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- ・その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- ・各ブロックのコンテンツ：7つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できるように設定

全国の活動からのヒント    森林管理局の取り組み    こんなときどうする?    研修関係の蓄積情報    全国のネットワーク、連絡先    その他のお役立ち情報



森林総合監理士(フォレスター)活動を見える化し、みなさんにお役立ていただける『みんなの引き出し』的サイトを目指します。

北海道ブロック    東北ブロック    関東ブロック    中部ブロック

近畿中国ブロック    四国ブロック    九州ブロック

更新情報    RSS

- 登録内容変更申請フォーム
- 森林総合監理士ポータルサイト
- 森林総合監理士PRサイト
- 「森林総合監理士(フォレスター)の育成」(林野庁)
- 全国林業改良普及協会
- お問い合わせ

鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

▲トップページ

## 更新情報

HOME > 更新情報 > **更新情報** > 鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

### 鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修の開催のお知らせ(令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業【農林水産省補助事業】)

投稿日: 2019年9月19日 | 最終更新日時: 2019年9月19日 | カテゴリ: 更新情報

鳥獣被害対策コーディネーター育成研修及び地域リーダー(森林)育成研修の開催案内です。  
 全国9カ所で開催を予定しています。  
 主な対象者として森林総合監理士の方も対象としております。

参加申込みについては、主催の(株)野生鳥獣対策連携センターのwebサイトからとなります。

<https://www.cho-ivy.jp/kensyu2019/index.html>

R01コーディネーター育成研修等開催リーフレット

▲更新情報ページ(部分表示)





▲全国の活動からのヒント(部分表示)  
 )計画作成支援



※外部データベースにリンク



▲森林管理局の取り組み)北海道森林管理局(部分表示)



※外部ホームページをリンク

全国の活動からのお知らせ 森林管理士の取り組み こんねととどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、連絡先 その他のお役立ち情報

### 講師一覧

平成23~25年度准フォレスター研修  
平成26~28年度森林総合監理士育成研修 講師リスト

各地域での研修等の開催の際に、参考してください。  
各ファイルの使用は、森林総合監理士(フォレスター) 限りとなりますので、取り扱いには十分ご注意ください。

森林管理局講師 [PDF]  
外部講師 [PDF]  
本庁講師 [PDF]

研修関係の蓄積情報  
講師一覧 研修フィールド一覧 講義資料 各種分析・評価データ

**【取り扱い注意】フォレスター限り**

氏名	所属	年度	ブロック	研修名
川島 裕	林野庁研究指導課	H25	関東	【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討、発表準備) 【演習】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【講評】
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(発表・ディスカッション)【講評】
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
			近畿中部	【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
川村 竜哉	林野庁研究指導課	H24	関東	【講義】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
			近畿中部	【講義】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【演習】資源管理利用機型演習(机上演習の検討結果を踏まえた地形、地質、林況等現地条件の確認)【演習】資源管理利用機型演習(現地実習を踏まえた演習の整備計画と木材供給ビジョンの検討)【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
			九州	【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
			林野庁量産課(研修)	【演習】資源管理利用機型演習(発表準備、発表、ディスカッション)【講評】
小坂 香太郎	林野庁研究指導課	H24	中部	【講義】森林・林業再生プランの概要(フォレストの役割、アフォーとの連携)【講義】育づくりの概要

▲研修関係の蓄積情報>講師一覧>本庁講師

全国の活動からのお知らせ 森林管理士の取り組み こんねととどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、連絡先 その他のお役立ち情報

### 協議会・ネットワーク

全国	地域	名称	連絡先(担当)	備考
		フォレスター・ギャザリング		利用のネットワーク、連絡先
近畿中部	兵庫県	フォレスター・ネットワーク	兵庫県林業振興課 林業推進課 林業推進係 担当: 山本 浩二 (079-221-4112) 兵庫県林業振興会 林業推進係 担当: 山本 浩二 (079-221-4112)	利用のネットワーク、連絡先
		サホーンプランニング・フォレスト・アソシエーション		Facebook
近畿中部	和歌山県	和歌山県フォレスター協議会	和歌山県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (073-441-4112)	Facebook
近畿中部	奈良県	奈良県フォレスター協議会	奈良県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (074-341-4112)	Facebook
近畿中部	徳島県	徳島県フォレスター協議会	徳島県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (087-821-4112)	Facebook
近畿中部	岡山県	岡山県フォレスター協議会	岡山県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (086-821-4112)	Facebook
近畿中部	広島県	広島県フォレスター協議会	広島県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (082-821-4112)	Facebook
近畿中部	山口県	山口県フォレスター協議会	山口県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (083-821-4112)	Facebook
近畿中部	香川県	香川県フォレスター協議会	香川県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (087-821-4112)	Facebook
近畿中部	愛媛県	愛媛県フォレスター協議会	愛媛県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (089-821-4112)	Facebook
近畿中部	高知県	高知県フォレスター協議会	高知県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (088-821-4112)	Facebook
近畿中部	福岡県	福岡県フォレスター協議会	福岡県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (092-821-4112)	Facebook
近畿中部	佐賀県	佐賀県フォレスター協議会	佐賀県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (095-821-4112)	Facebook
近畿中部	熊本県	熊本県フォレスター協議会	熊本県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (096-821-4112)	Facebook
近畿中部	大分県	大分県フォレスター協議会	大分県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (097-821-4112)	Facebook
近畿中部	宮崎県	宮崎県フォレスター協議会	宮崎県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (098-821-4112)	Facebook
近畿中部	鹿児島県	鹿児島県フォレスター協議会	鹿児島県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (099-821-4112)	Facebook
近畿中部	沖縄県	沖縄県フォレスター協議会	沖縄県林業振興課 林業推進課 担当: 山本 浩二 (098-821-4112)	Facebook

**FGathering Forester**

フォレスター・ギャザリング  
@forester\_gathering

ホーム  
投稿  
写真  
ページ情報  
コミュニティ  
イベント

**フォレスター・ギャザリング2019@長野**  
日時: 2019年8月3日(土) 13:00-15:00  
場所: 若里市民文化ホール 会議室1&2(ビッグハット隣)  
(次世代森林産業展会場 FOREST RISEにて)

フォレスター・ギャザリング  
8月3日  
講師会費のご報告。  
事務局の田村です。ギャザリングお疲れ様でした。今回は懇親会に「連携会費」という区分を設けましたが、結果として2名の方にこの区分を適用したため、5,200円を超過することができました。この金額は、主に、今回の企画立案実行に多大なるご貢献をいただいた長野県主催の方の懇親会費(4,300円)として利用させていただきました。

写真: 懇親会の様子

▲全国のネットワーク、連絡先



## Ⅱ. 総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士PRサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を作成した。

『森林総合監理士PRサイト』は、森林総合監理士活動をPRし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として作成した。活動モデルの紹介や対象者(山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等)ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトであり、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きい。今後も、インターネットや各媒体を活用し、継続的に森林総合監理士活動をPRしていく必要がある。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約 240 事例等の全国の先進的・優良事例、平成 23～28 年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報(約 290 名の講師、フィールド)など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。登録者数は1月 27 日時点で 351 名となった。7ブロックごとにコンテンツを設置し、自由に情報を発信、コメント投稿が可能だが、投稿の利用度が低い状況となっている。ログイン制となっていることでセキュリティー等の問題があったり(利用者が職場のパソコンからアクセスしづらい)、気軽に閲覧・利用できるサイトとなっていないことから、森林総合監理士同士の情報交換の場として使用してもらえるよう、情報・発信の工夫が必要である。

